

# 決算

一般会計歳入決算額

68億6,322万円

一般会計歳出決算額

62億5,373万円

平成28年度

一般会計は、主として新庁舎建設工事が始まったことにより、歳出総額、歳入総額共に前年度より10%以上増加しました。積立金と借入金を活用したため、積立金残高が平成27年度末37億600万円から平成28年度末31億1,167万円となり5億9,433万円減少し、借入金残高が平成27年度末37億6,404万円から平成28年度末38億8,882万円となり1億2,478万円増加しました。また、歳入歳出差引残額は平成27年度6億9,829万円から平成28年度6億949万円となり8,880万円減少しました。

事業名	歳入総額		歳出総額		差引残額	
	H28年度	H27年度	H28年度	H27年度	H28年度	H27年度
後期高齢者医療	1億4,185万円	1億3,298万円	1億3,988万円	1億2,921万円	197万円	377万円
国民健康保険	25億8,328万円 (1億4,273万円)	24億3,566万円 (5,989万円)	24億5,943万円	23億7,417万円	1億2,385万円	6,149万円
介護保険	11億8,002万円	11億6,717万円	11億4,289万円	11億3,307万円	3,713万円	3,410万円
下水道事業	1億9,089万円 (2,172万円)	1億9,130万円 (2,690万円)	1億7,528万円	1億7,575万円	1,561万円	1,555万円

※1 国民健康保険の( )内は、歳入総額のうち、一般会計からの赤字補てん繰入金

※2 下水道事業の( )内は、歳入総額のうち、一般会計からの基準外繰入金

■特別会計決算額

## 平成28年度健全化判断比率

地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき平成28年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率を公表します。いずれの比率もイエローカードである早期(経営)健全化基準を下回っています。実質赤字比率…町の一般会計における赤字の程度が、町の財政規模に対してどれくらいの割合かを示す指標です。

連結実質赤字比率…町のすべての会計における赤字の程度が、町の財政規模に対してどれくらいの割合かを示すものです。

実質公債費比率…町の一般会計が負担する借入金の返済費やこれに準じるものの支払いが、町の財政規模に対してどれくらいの割合かを示すものです。

将来負担比率…町の一般会計が将来負担すべき実質的な負債が、町の財政規模に対してどれくらいの割合かを示すものです。

資金不足比率…町の下水道事業特別会計の資金の不足額が、事業の規模に対してどれくらいの割合かを示すものです。

### ▼健全化判断比率

区分	板倉町	早期健全化基準
実質赤字比率	(-)	15.00%
連結実質赤字比率	(-)	20.00%
実質公債費比率	4.9% (5.9%)	25.00%
将来負担比率	(-)	350.0%

( )内は平成27年度決算に基づく比率

○実質赤字比率は、実質赤字ではないため「-」と表示。

○連結実質赤字比率は、実質赤字ではないため「-」と表示。

○将来負担比率は、将来負担額に充てることのできる財源等が将来負担額を上回っているため「-」と表示。

### ▼資金不足比率

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
下水道事業特別会計	(-)	20.0%

( )内は平成27年度決算に基づく比率

○資金不足比率は、資金不足ではないため「-」と表示。

問合せ 財政係 ■内線132

町債 新庁舎建設、中央公民館大ホールの改修、防犯灯のLED化などのために借入れを行い、9,320万円の増となりました。地方消費税交付金 消費の低迷のため、2,555万円の減となりました。なお、この交付金のうち社会保障財源化分1億1,074万円は、福祉医療費をはじめとした各種社会保障関係経費の財源に充てました。

その他 前記以外の収入であり、ふるさと納税の増加などにより、やや増となりました。歳出総額は、62億5,373万円であり、対前年度7億2,764万円の増となりました。民生費 国民健康保険特別会計への繰出しや、年金生活者などを支援するための臨時福祉給付金の支給などにより、2億856万円の増となりました。総務費 主に新庁舎建設工

### 一般会計歳出

衛生費 館林・板倉・明和ごみ処理施設建設費用を含む館林衛生施設組合負担金の増加などにより、8,986万円の増となりました。土木費 生活道路などの整備に加え、八間樋橋を含む町道119号線の開通、雷電神社参道の改修が完了しました。教育費 中央公民館大ホールの改修、海洋センター照明のLED化などを実施しました。公債費 借入金の返済費であり、8,682万円の減となりました。消防費 防災対策として中央

公民館、北小、東小への太陽光発電設備設置が終了したことなどにより、6,013万円の減となりました。農林水産業費 岩田小平地区の農道整備、細谷地区・頭沼地区の水路整備、飯野南部地区のほ場整備などを実施しましたが、平成26年2月の大雪に伴う農業用ハウスの復旧の終了などにより2,648万円の減となっています。その他 前記以外の支出であり、やや減となりました。問合せ 財政係 ■内線132

### 一般会計歳出決算額

内訳	H28年度	H27年度	増減率
民生費	18億9,443万円	16億8,587万円	12.4%
総務費	17億3,122万円	11億3,375万円	52.7%
衛生費	5億9,876万円	5億890万円	17.7%
土木費	5億2,297万円	5億1,587万円	1.4%
教育費	4億9,647万円	4億9,587万円	0.1%
公債費	3億1,789万円	4億471万円	△21.5%
消防費	2億7,332万円	3億3,345万円	△18.0%
農林水産業費	2億6,227万円	2億8,875万円	△9.2%
その他	1億5,640万円	1億5,892万円	△1.6%
歳出合計	62億5,373万円	55億2,609万円	13.2%

※用語解説 民生費…幼児や高齢者などの福祉に使用します/総務費…町の一般的な管理事務にかかります/衛生費…ごみ・し尿の処理や住民検診に使用します/土木費…道路や河川、公園などの整備・維持管理に使用します/教育費…小中学校や公民館の経費、文化・スポーツ活動に使用します/公債費…借りたお金の返済に使用します/消防費…消防・防災のために使用します/農林水産業費…農業や畜産業の振興、土地改良などのために使用します

### 一般会計地方債(借入金)現在高

H28年度末	H27年度末	増減率
38億8,882万円	37億6,404万円	3.3%

※紙面の都合により積立金・地方債現在高は、一般会計のみ掲載しています。

### 一般会計歳入決算額

内訳	H28年度	H27年度	増減率
町税	19億8,693万円	19億3,148万円	2.9%
地方交付税	13億6,724万円	14億5,850万円	△6.3%
繰入金	8億7,450万円	2億6,440万円	230.7%
繰越金	6億9,829万円	6億3,106万円	10.7%
国庫支出金	4億6,826万円	5億710万円	△7.7%
県支出金	4億1,817万円	4億7,626万円	△12.2%
町債	4億1,230万円	3億1,910万円	29.2%
地方消費税交付金	2億5,663万円	2億8,218万円	△9.1%
その他	3億8,090万円	3億5,430万円	7.5%
歳入合計	68億6,322万円	62億2,438万円	10.3%

※用語解説 町税…町民税や固定資産税などの税金です/地方交付税…財政状況に応じて交付されます/繰入金…基金や特別会計からの繰入金です/繰越金…前年度からの持ち越し金です/国庫・県支出金…特定の事業を行うために国や県から交付される補助金などです/町債…借入金です/地方消費税交付金…消費税の一部が交付されます

### 一般会計積立金現在高

区分	H28年度末	H27年度末	増減率
財政調整基金	20億4,650万円	20億2,564万円	1.0%
減債基金	6,909万円	9,899万円	△30.2%
その他特定目的基金	9億9,608万円	15億8,137万円	△37.0%
合計	31億1,167万円	37億600万円	△16.0%

### 一般会計歳入

歳入総額は、68億6,322万円であり、対前年度6億3,884万円の増となりました。町税 町の主要な収入であり、3年ぶりに前年度実績を上回り、平成19年度以降2番目に高い水準となりました。地方交付税 町税に次ぐ主要な収入ですが、前年度に比べ9,126万円の減となり、年々減少が続いています。

繰入金 主に庁舎等建設基金からの繰入れを行った関係で6億1,010万円の増となりました。繰越金 前年度の歳入歳出差引残額が持ち越され、当年度の収入となります。国庫支出金 地域住民の生活を緊急に支援するプレミアム付き商品券を発行するための国の補助金が終了したことなどにより、3,884万円の減となりました。県支出金 防災対策として中央公民館、北小、東小への太陽光発電設備設置が終了したことなどにより、5,809万円の減となりました。